

看護学校(3年課程)自己点検・自己評価表

評価項目			平成31年度・令和1年度 自己点検・自己評価結果			
			当 ま る は	て や る は ま ま	ま 当 ら て な は	
大項目	中項目	評価対象項目(質問事項)				
I 教育 理 念 ・ 教 育 目 的	教育 理 念 ・ 教 育 目 的	(1)教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している。	○			教育理念・教育目的にある3つのスキルは、看護師になるために必要なものだけでなく、人として身に着けておかなければならないものであると判断しているため、入学時より担当教員による生活指導がなされている。特にコンセプチュアルスキルにある判断力は普段の生活の中で求めている。テクニカルスキルにおいては担当教員から少人数で看護師としての基礎的な技術を徹底的に教えられている。特に療養上の世話に必要な技術は合格なしには実習に行くことはできない。3つのスキルは学校の売りになっている。印象付けるには効果がある。学生の状況をみると社会人が多くなってきている、高卒新卒の学生確保の方法を考えていかなければならない。
		(2)教育理念・教育目的は、法との整合性がある。	○			
		(3)教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。	○			
		(4)教育理念・教育目的は、実際に学生の学習の指針になっている。	○			
		(5)教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保証するためにどのような教育内容を設定しているかを述べている。	○			
		(6)教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保証するためにどのような教育方法をとるのかを述べている。	○			
		(7)教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保証するためにどのような教育環境をとるのかを述べている。	○			
		(8)教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。	○			
		(9)看護、看護学教育、学生観は、実際に教師の教育活動の指針となっている。	○			
		(10)教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。	○			
		(11)卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保証するのに妥当なものとなっている。	○			
II 教 育 目 標	教育 目 標	(12)教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	○			教育目的が到達できるよう教育目標を細かくあげ卒業時の到達目標に近づくことができるようにあげられている。そのための内容になっていることを教員が周知している。
		(13)教育目標は、設定した教育内容を網羅している。	○			
		(14)教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読み取れるものとなっている。	○			
		(15)教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。	○			
		(16)教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。	○			
		(17)看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。	○			
		(18)卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	○			
		(19)教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。	○			教育課程と授業実践、教育評価との関連性は学生にも説明されており、理解していると考えている。どのような看護師になってほしいか卒業時の看護師像に照らし合わせた教育課程である。
		(20)教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。	○			

評価項目			平成31年度・令和1年度 自己点検・自己評価結果			
			ま ま ま ま	ま ま ま ま	ま ま ま ま	ま ま ま ま
大項目	中項目	評価対象項目(質問事項)	ま ま ま ま	ま ま ま ま	ま ま ま ま	ま ま ま ま
Ⅲ 教育課程経営	教育課程経営者の活動	(21)看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	○			
		(22)学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	○			
		(23)学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	○			
	科目、単元構成	(24)明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。	○			科目の構成は根拠に基づいたものであるが、教育目的にあげている3つのスキルに適応している科目かと考えると少し物足りない。改善し適切な科目を設定する必要がある。
		(25)明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。	○			
		(26)科目と単元の構成の考え方は教育理念・教育目的と整合性がある。		○		
		(27)構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である。	○			
		(28)構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。		○		
	教育計画	(29)単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。		○		単位履修の方法は、担当教員から個別に指導を受けるが、全員理解するのは無理があり、何度説明しても理解できない学生がいる。科目の単位習得は臨地実習に行く基準になるので学修の室の維持には影響力がある。
		(30)単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。	○			
		(31)単位履修制の考え方を踏まえつつ看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。	○			
	教育課程評価の体系	(32)単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	○			単位認定の基準は、看護師に必要な科目認定のため妥当である。また、今年度から他校から転入してくる学生を受け入れている。転入受け入れの体制は十分にできている。教育評価に関しては第三者評価を取り入れが不十分のため今後検討し、他者からの評価を受ける体制を整えていかなければならない。
		(33)単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	○			
		(34)他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。	○			
		(35)教育課程を評価する体系を整えている。			○	
		(36)評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	○			
	教員の教育・研究活動の充実	(37)教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。	○			教員は領域別とし、教員の専門性をいかした担当科目にしているが、基礎科目においては授業時間が多く看護師であれば専門領域関係なく教授できると考えたため、分担制をとっている。このことが教員に負担をかけることになっているのではないかと考える。
		(38)教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。			○	
		(39)教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。			○	
		(40)教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。		○		
		(41)臨地実習施設は養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。			○	各施設年3回程度、指導者会議を実施し、学校の教育について説明をし、意見を交わしている。指導者側の意見も

評価項目			平成31年度・令和1年度 自己点検・自己評価結果			
大項目	中項目	評価対象項目(質問事項)	ま 当 て は ま る	ま あ ら わ な い	ま あ ら わ な い	
	学生の看護実践体験の保障	(42) 臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。		○		尊重し、教育の改善に役に立てている。しかしすべての実習施設がそうではなく、場所の提供だけと言われたり、教員に対しての不満もかなりでている。学生に対する学校の考えをよく聞かれる状況である。
		(43) 臨地実習指導における学生の学びを保证するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。		○		
		(44) 臨地実習指導における学生の学びを保证するために教員の役割を明確にしている。			○	
		(45) 臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。	○			
		(46) 学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。	○			
		(47) 対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。	○			
		(48) 臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。		○		
		(49) 学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。	○			
	授業内容と教育課程の一貫性 看護学生としての妥当性 授業内容間の関連と発展	(50) 授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。			○	授業は与えられたものをこなしているだけで、反省する場面がないように思える。すべて教育目標に帰らなければならないが、そこまでに至っていない。時間がないことが問題である。
		(51) 授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。			○	
		(52) 授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。			○	
		(53) 授業内容のまとまりは看護学の教育内容として妥当性がある。			○	
		(54) 授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。			○	
IV 教授・学習・評価過程	授業の展開過程	(55) 授業形態(講義、演習、実験、実習)は授業内容に応じて選択している。		○		授業の形態は内容に基づいて選択されている。授業計画を提出して指導を受ける教員とそうでない教員との差が大きすぎる。しかし学内演習に関しては他の教員の協力体制は十分になされている。
		(56) 授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。		○		
		(57) 授業の展開過程の他に、学生の実習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。		○		
		(58) 学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。		○		
	目的達成の評価とフィードバック	(59) 評価計画を立案し実施している。		○		学校評価に関して学生が意図的に評価をされているのが全体の70%を占め、的確な評価をされていないように思える。いくら指導してもなされない。教員の機嫌をとっているように思える。よって評価が次回の授業にいかされていない。
		(60) 評価結果に基づいて実際に授業を改善している。			○	
		(61) 学生および教育活動を多面的に評価するために多様な評価の方法を取り入れている。			○	
		(62) 教育目標の達成状況を多面的に把握している。		○		

評価項目			平成31年度・令和1年度 自己点検・自己評価結果			
大項目	中項目	評価対象項目(質問事項)	当 て は ま る	て は ま ま 当	ま だ い ら な は	
		(63) 学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。			○	
		(64) 単位認定の評価には公平性が保たれている。			○	
	学習への動機 付けと支援	(65) シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。		○		シラバスは毎年見直しをし訂正し、学生に3年分を渡している。学生はシラバスを見て次の日の授業で何を習うかを見てくるように指導してある。授業に必要な物は何かなどを考える機会を与えている。
		(66) シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動議づけと支援になっている。	○			
設置者の意思・ 指針	(67) 養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。	○			養成所の管理者は学校の方針に反対もなく協力的で、管理運営を任せてくれている。	
	(68) 養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。	○				
	(69) 養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。	○				
	(70) 明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。	○				
	(71) 教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。	○				
組織体制	(72) 養成所の組織体制は、教育理念・教育目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。		○		すべての意思決定は養成所管理者に委ねられているが、学校の教育に関しては一任。決定事項に関してはメールなどで連絡し承諾を得ている。また週1回相談があれば面談でき意思を伝える機械を設けている。	
	(73) 意思決定システムが明確になっている。		○			
	(74) 意思決定システムは組織構成員の意思を反映できるように整えられている。		○			
	(75) 意思決定システムは決定事項が周知できるように整えられている。		○			
	(76) 組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。		○			
	(77) 教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。		○			
V 経営・ 管理 過程	財政基盤	(78) 財政基盤を確保することについての考え方が明確である。			○	財政に関しては本部が取り仕切っている。月1回の会議で法人の経営の実態について説明を受ける。教職員全員が財政について理解できているかは疑問である。
		(79) 財政基盤を確保することについての考え方は学習・教育の質の維持・向上につながっている。		○		
		(80) 教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。			○	
		(81) 教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。		○		
V 経営・ 管理 過程		(82) 学習・教育環境の整備について管理者の考え方を明示している。	○			建物は物品に関しては、定期的に点検し、その度に補充や修理をおこなっている。使い勝手の悪い場所もあるが、上手く調整をしながら使用している。福利厚生においては、法人が出されているものがあるが、あまり活用されていない。
		(83) 管理者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している。	○			

評価項目		平成31年度・令和1年度 自己点検・自己評価結果				
		当 て は ま る	て や は ま ま	ま あ ら な い		
大項目	中項目	評価対象項目(質問事項)				
	施設設備の整備	(84) 看護の専門職教育に必要な施設整備を計画的に整備している。		○		ない。
		(85) 医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。	○			
		(86) 養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとっての福利厚生施設の整備を検討している。			○	
		(87) 学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。	○			
	学生生活の支援	(88) 学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。	○			はくほう会奨学金制度・学生支援機構奨学金制度・専門実践教育給付制度の説明を行い、支援していただいている。その結果学生はゆとりができ、勉学に励める状況になっている。
		(89) 学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。	○			
		(90) 支援体制は、実際に学生に活用され学修の継続を助けている。	○			
	養成所に関する情報提供	(91) 教育・学習活動に関する情報提供を関係者(保護者等)に行っている。	○			科目成績は年2回保護者宛に送付している。また学生の気になる点があれば保護者に連絡をいれ面談を行っている。学校としてのピーアールはホームページのみで、内容の書き換えは入学試験の日程や願書受付の日時や学校祭のご案内だけを行っている。内容の改善は行っていない。
		(92) 関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。	○			
		(93) 看護師等を養成する機関としての存在を十分にアピールする広報活動を適切に行っている。		○		
		(94) 広報の内容は社会的説明責任を果たすものとなっている。	○			
	養成所の運営計画と将来構想	(95) 養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。			○	何年か先に4年制計画が県より説明があったが、学校としてどうするか検討はできていない。
		(96) その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。			○	
	自己点検・自己評価体制	(97) 自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	○			授業に関しては学生の評価を生かし次回の授業にいかせていただけるように各講師に配布している。また新入教員の授業に対して三者評価を元に副校長が授業に入り評価している。評価後教員に個別指導を行っている。また各教員は評価を元に授業内容の変更をしている。
		(98) 実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。	○			
(99) 自己点検・自己評価体制を整え、運用している。		○				
(100) 自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。		○				
(101) 自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。		○				
VI 入学	入学状況	(102) 教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	○			入学に関しては、年齢制限もしていないし、入学試験の順位にて合格を決定している。社会人の受験生が最近多くなっている。水栓入試の人数を考え、新卒の学生を全体の3分の2合格できるように基準を検討する必要がある。
		(103) 入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性および教育効果の視点から分析し、検証している。	○			
		(104) 卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	○			卒業生の就職活動においては、学生の希望を取り入れながら学生の適正を考え、就職先への連絡を取っている。また

評価項目			平成31年度・令和1年度 自己点検・自己評価結果			
			当てはまる	やや当てはまる	当てはまらない	
大項目	中項目	評価対象項目(質問事項)				
VII 卒業・就職・進学	卒後状況	(105) 卒業時の到達状況を分析している。		○		た卒業2～3ヶ月後に就職先を訪問し、状況を把握し、離職防止に努めている。面接を兼ねて訪問の際に学校の教育がどのように影響しているか、各就職先から情報を収集し分析している。
		(106) 卒業生の就業・進学状況を分析している。	○			
		(107) 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目的、教育目標との整合性がある。	○			
		(108) 卒業生の就業先での情報を把握し、問題を明確にしている。	○			
		(109) 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。	○			
		(110) 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	○			
		(111) 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。		○		
VIII 地域社会／国際交流	地域社会	(112) 社会と連携に向けて地域のニーズを把握している。		○		奉仕活動・学校祭をととして地域の交流を図っている。福祉避難所の設置に明石市と連携を持ち今年度中に契約する予定である。しかし地域のニーズの把握までには至っていない。災害看護の授業や奉仕活動の中で学生に取り組みをさせる必要がある。
		(113) 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。		○		
		(114) 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段もっている。		○		
		(115) 養成所から地域社会へ情報を発信する手段もっている。		○		
		(116) 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。		○		
		(117) 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。		○		
	国際交流	(118) 国際的視野を広げるための授業科目を設定している。			○	看護学概論の中で国際的な内容が組み入れられているが、授業科目としてはあげていない。海外からの帰国学生や留学生を受け入れていない訳ではないが、現在までそのような学生は受験していない。しかし、留学生を受け入れるにあたっては教員体制が今のままでは不十分であると思われる。
		(119) 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。			○	
		(120) 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。			○	
		(121) 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。			○	
	IX 研究	自己研鑽	(122) 教員の研究活動を保証(時間的、財政的、環境的)している。			○
(123) 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。					○	
(124) 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援しあう文化的素地が養成所内にある。					○	